



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)強羅花壇Mt.富士計画	BEE	1.4	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点		取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.7	/5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上	ふつつ 3点以上	がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.5	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>②光庭の採用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑧自然通風、光庭による自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪井水利用。 ⑬有害化学汚染物質を含まない材料を使用。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑮主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.7
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点
	<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑街並みに配慮し、空地率が高くなつた、通路等以外は自然林空地率が高くなつた、通路等以外は自然林を活用</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.8	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑮主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	<p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ② まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)強羅花壇Mt.富士計画	階数	地上6F 地下1F
建設地	静岡県駿東郡小山町須走西之砂10	構造	RC造
用途地域	用途無指定地域,景観形成重点地区	平均居住人員	163 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,592 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年2月13日
敷地面積	49,726 m ²	作成者	荻津郁夫
建築面積	2,359 m ²	確認日	
延床面積	9,338 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.3)

音環境: 2.6, 温熱環境: 3.1, 光・視環境: 2.7, 空気環境: 4.4

Qのスコア = 3.2

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.1)

機能性: 3.4, 耐用性: 3.0, 対応性: 3.0

Q3 室外環境(敷地内) (Q3のスコア= 3.2)

生物環境: 2.0, まちなみ: 4.0, 地域性: 3.6

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.8)

建物外皮の: 3.8, 自然エネ: 4.0, 設備システ: 4.2, 効率的: 3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.0)

水資源: 3.4, 非再生材料の: 2.9, 汚染物質: 3.2

LRのスコア = 3.4

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.3)

地球温暖化: 3.7, 地域環境: 3.0, 周辺環境: 3.4

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果である。 建築物の環境品質については、ゆとりが有り維持管理のしやすい空間とすることで環境品質が向上するよう努めている。	5奈森林区域を有しており、森林や地形を活かすよう配慮した計画とした。	
Q1 室内環境 光庭を設け居室の自然採光に配慮した。	Q2 サービス性能 内装、設備配管は維持管理がしやすく更新間隔が長い材を使用。 換気について、換気が十分とれるよう配慮した。 非常用電源設備を設置した。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地の緑が連続するよう外構植栽計画を行った。
LR1 エネルギー 自然通風、光庭による自然エネルギーの利用。 LED照明の採用。高効率空調機の導入。	LR2 資源・マテリアル 節水型機器を採用 内装はリサイクル材を採用するよう配慮した。 有害物質を含まない材料を選択するよう配慮した。	LR3 敷地外環境 気象データを用いて風環境に配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される